

北区会 自由な趣味の会

第38回折り紙の会 活動計画

：2020年 12月 23日 (水) 13時～16時

参加者と場所と時間

時 間	場 所	参 加 予 定 者
13時～16時	研修館2号	みどり講師・まどか講師・山下講師：鬼村信行、佐伯義昭、前田仁子、宮内久子、高橋、高橋奥、徳山忠子、山川端子、岸野清美、才田章子・松濱正代・松本茂、永井ツネコ、上谷喜代子、岩崎恭子、庄田洋一 道満。 他

1、はじめの会

先月と同じコメントです。

1)「日本折り紙協会＝発行「おりがみ100」お渡ししました。この本掲載作品の全て 制作され、日本折紙協会に連絡して、審査を受け認知されまると、講師の資格がもらえるそうです。何方かチャレンジしてみてください。尚、先日も申しましたが、この本でご自身で2～5品を作り、その作品を「折り紙教室」の日持参ください。発表しお互いの批評を楽しむ事などいたします。

2) 令和3年3月4日～7日に趣味の会4講座初の展示発表会開催します。開催まで100日ありますが、各自が展示品をセレクトしてください。展示のブースは後ほどお知らせいたします。アバウトですが…お一人の出品数は 色紙1・2枚と鶴など小作品数点の準備、折り紙以外の自作品1点を準備しましょう。

2、活動開始 梶田講師から、月の一制作する作品についてご説明頂きます。

* 作品テーマ 干支飾り

I 手馴らして鶴を折ります・ II、干支 丑の色紙？写真はモデルで当日講師から提案。

※ 12月 回る回る牝馬



3、干支 について (インターネット)

牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起の良い動物として十二支に加えられたようです。また「紐」という漢字に「丑」の字が使われおり、「結ぶ」や「つかむ」などの意味を込めたとも考えられています。

そもそも、なぜ十二支に動物が使われているのかご存知でしょうか。

十二支が生まれたのは中国の「殷」の時代。もともと日付や時刻、方角を表すために使われていましたが、干支の漢字(子丑寅…)は特に意味を持たない記号のようなもので一般の民衆には覚えにくかったそう。

そこで、人々が覚えやすいようにと後漢の時代に中国の王充(おういつ)という人物が十二支に身近な動物を割り当てて文献を書きました。これが十二支に動物が使われた始まりと言われてます。干支の漢字(子丑寅…)と動物の漢字(鼠牛虎…)がかなり違うのは後から割り振られ

申し合わせ及び注意事項

- 1) 欠席者は事前に幹事「道満」へ連絡する
- 2) 諸道具(ハサミなど)は自身で持参、その服装などの準備をお願いします
- 3) 諸道具の購入などは参加者負担(500円)をお願いします。

次回開催 この会はこの区会の方も自由に参加頂けます。お知り合い友達お誘いください。

第39回折り紙の会

令和三年 1月27日(水) 13時～16時30分

場所 : しあわせの村 内